矯正臨牀例

Two orthodontic cases by Dr. H. Yamakawa

東京高等齒科醫學校第二附屬醫院矯正科

山 川 博 明

第 1 例

患者ハ5歳8ヶ月ノ女兒デアツテ、上顎兩中切齒ノ正中離開ト同時ニ當該齒牙ノ舌

第 1 圖

A

B

昭和6年11月2日
施 術 前

昭和8年4月9日
施 術 後

側轉位(所謂反對咬合)ヲ主訴トシテ來院セルモノデアル。

既往症トシテハ生來著患ナク母乳榮養兒デアルガ、體格、榮養共ニ中等度、體質ハ腺病質性デ扁桃腺肥大アルヲ認メ、呼吸ハ口呼吸ヲ伴ヒ鼻汁ノ分泌ハ比較的の多量デアル。

顔貌ハ正面、側面共ニ著明ナル變化ハ無ク外貌上正常咬合ノ場合ニ於ケルト差異ヲ認メナイ、即チ下顎近心咬合ニ見ル如キ下唇ノ前突、竝ニ下顎骨ノ變化ハ之レヲ認メナイノデノル(第1圖A參照)。

第 2 圖 (施 術 前)

第 3 圖

單純補助彈線ニヨル前齒ノ唇側移動

37 a

昭和6年11月2日

口腔内ヲ診査スルニ上唇繫帶ハ比較的著明デ上顎兩中切齒間ノ離開約5耗ニ及ンデキル。正中離開ノ原因トシテハ繫帶ノ異常、出齦過剰齒竝ビニ埋伏過剰齒ノ存在等ガ舉ゲラレテタルガ、本例ニ於テハ「レントゲン」線寫眞撮影ノ結果(第5圖 A.B.C 參照)上顎右側中切齒齒根端ト正中縫合トノ間、口蓋側ニ於テ過剰齒ノ埋伏逆生セルヲ認メタノデアル。

上下齒穹ノ咬合關係ヲ診査スルニ前齒部ニ於テハ、上顎兩中切齒ハ舌側ニ僅ニ轉位シ、ソノ切端ハ下顎右側側切齒ヲ除ク他對合前齒ニ僅ニ被蓋サレテ所謂反對咬合ヲ呈シテキル。上下第一大臼齒ノ咬合關係ニ於テハ左側第一大臼齒ノ近遠心關係ハ正常デアルガ、上顎右側第一大臼齒ノ近心頬側咬頭尖頂ハ下顎右側第一大臼齒ノ近心頬側溝ニ嵌咬セズシテ約半咬遠心ニアリー見偏側性近心咬合ヲ思ハセルモノガアル。然シ

Grünberg 氏 Symmetroscope ニヨツテ之レヲ測定スルト上顎右側第一大臼齒ノ位置ハ正常デ唯僅ニ近心頬側咬頭ヲ中心ニシテ遠心部が頬側ニ捻轉セルノミデ、ムシロ

第 4 圖

第 5 圖

A 矢印ハ埋伏過剰齒ヲ示ス(昭和6年11月2日)

B 齒牙ノ長サ10耗

37b

昭和7年1月22日

下顎右側第一大臼齒ガ同側第二乳白齒早期喪失ニヨツテ約1耗強近心ニ轉位セルヲ認メタノデアル。從ツテ本例ニ於テハソノ上下齒窩ノ近遠心關係ハ正常ナリト考ヘラル、ノデアル。

診 斷

埋伏過剰齒ニ原因スル上顎中切齒ノ正中離開、及ビ上顎前齒齒槽部發育不良ニ依ル上顎兩中切齒ノ舌側轉位、但シソノ原因ハ不明ナルモノト診斷スル。

施術方針

前歯部ノ前方發育ヲ計リ、上顎兩中切齒ノ下顎前齒ヲ被蓋スルニ及ンデ埋伏過剰齒ヲ摘出し、シカルノチ正中離開ノ矯正ヲ行フ、勿論、最初ニ埋伏過剰齒ノ摘出ヲ計ルモ差支ヘナイガ、先ヅ第一ニ前齒部ノ所謂反對咬合ヲ矯正シ置ク事ガ患者ニ於テハ咬合時又ハ談話ノ際、施術者ニ於テハ手術後ノ矯正裝置實施ニ於テ便宜多キタメニ此順序ヲ選擇シタニスギナイノデアル。

第 5 圖 C

昭和7年2月17日

昭和6年11月2日

昭和7年8月23日

昭和7年3月4日

施術方法竝ニ經過

上顎中切齒唇側移動ノタメニ、第2圖 37a ニ於テ、上顎左右第一大臼齒ヲ固定齒トスル舌側孤線ヲ第3圖ノ如ク調製シ、主線ノ兩側第二乳齒部ヨリ單純補助彈線ヲ同圖ニ見ル如ク鑲著スル、カクシテ前齒部ノ前方發育ヲハカルコト約二ヶ月、上顎兩中切齒ハ下顎前齒ヲ被蓋シ(第4圖 37b)、兩中切齒ノ唇側移動セルコト約1耗、兩者ノ正中離開ハソノ空隙5耗ヨリ6耗ニ増加シテキタ。此處ニ於テ主線ニ加線シ保定裝置(第9圖参照)トナシ、次デ埋伏過剰齒ノ摘出ヲ行ツタ。

過剰齒摘出ノ手術ハ當病院外科室ニ於テ行ツタノデアルガ、過剰齒ハ右側中切齒齒根端ト正中縫合ノ間ニ口蓋側ニ於テ逆生シテキタ(第5圖 A.C)。齒牙ノ大サハ長サ約10耗、齒冠ト齒根略々同大ノ圓錐齒デアツタ(第5圖B)。

第 6 圖

イ、ロ共ニ釘管装置
イハ上唇繫帶ノ大ナルトキ
ロハ上唇繫帶ノ小ナルトキ
使用ス

第 7 圖

釘管装置ヲ改變
シテ保定裝置ニ

ケ月デ之レヲ撤去シタ(第8圖 37d 參照)。

豫 後

保定裝置撤去後一ケ月程經過スルト僅少デハアルガ
再ビ兩中切齒ノ正中離開ヲ見タノデ、以前使用セシ加
線セル舌側孤線ニ指樣彈線ヲ第9圖ノ如ク鑲著シテ兩

第 8 圖

37d
昭和7年7月14日

第 9 圖

加線セルハ前齒ノ唇側移動後ノ保定ノ
タメ、指樣彈線ハ兩中切齒ノ近心移動
ヲナスタメ

第 10 圖

37 f

昭和9年5月4日

中切齒ノ近心移動ヲ試ミタ。約二ヶ月ニシテ施術ヲ終リ、且ツ兩側切齒出齦シ始メタルヲ以テ裝置ヲ撤去シ簡單ナル保定裝置ヲ施シ約三ヶ月後コレヲ撤去シ、爾後放置ス。第10圖37fハ約一ヶ年半後ノ狀態ヲ示ス(第1圖B參照)。上顎左側第一小白齒ト同側第一大臼齒ノ空隙ハ第二小白齒ヲ入ル、ニ稍、狹小ナルヲ認メル。コレハ第一小白齒ノ遠心轉位ト第一大臼齒ノ近心ニ傾斜セルタメト思ハレル。上顎兩中切齒ハ殆ド正常ナル位置ニ止リ再發ノ傾向ヲ見ズ、前齒ノ被蓋狀態モ正常デアル。

本例ノ如ク、一般ニ正中離開ヲ有スルモノハ常ニソノ原因ヲ探究スルコトが必要デアル。齒牙萌出ノ生理的推移トシテ正中離開ヲ伴ヘルモノモアルガ一般ニ其ノ間隔2耗以上ニ及ブ時ハ埋伏過剰齒、殘留乳齒根、上唇繫帶ノ發育異常等ガソノ原因トシテ普通認メラレルモノデアル。

第2例

患者ハ7歳8ヶ月ノ女兒デアツテ、上顎左側中切齒ノ低位唇側轉位ト同右側中切齒ノ舌側轉位トヲ主訴トシテ來院セルモノデアル。

既往症トシテハ生來著患ヲ知ラズ、母乳榮養兒デアツテ體格、榮養共ニ中等度、健康ニシテ耳鼻科の疾患モ之レヲ認メナイ。

遺傳的關係ノ意味ニ於テ弟ヲ診察シタルニ上顎永久左右中切齒ハ正中離開セルコト約2耗、シカモ同右側中切齒ハ舌側轉位シテ下顎前齒ニ被蓋セラレテキル。

顔貌ハ正面、側面共ニ正常デアツテ近心咬合、又ハ遠心咬合ニ見ルガ如キ特徴ヲ認メナイ。

第 1 圖

40 a

昭和6年11月25日(初診)

再診ハ昭和7年10月3日デアツテ第2圖 40 b

ニ於テソノ上下齒穹關係ヲ見ルニ、上顎右側第一大臼齒(初診時未出齦)ハ下顎同側第一大臼齒(初診時未出齦)ト正常ニ咬合スレドモ、上顎左側第一大臼齒ハソノ近心頰側咬頭尖頂、下顎同側第一大臼齒(初診時未出齦)近心頰側溝ニ嵌咬セズシテ約半咬頭近心ニ偏位シー見偏側性遠心咬合ヲ思ハシメルモノガアルガ、Grünberg氏 Symmetroscopeニ依ツテ測定スルニ上顎左側第一大臼齒ハ同右側同稱齒ニ比シ3耗近心ニアルコトヲ確メ得タ。恐ラク當該齒牙ノ近心ニ轉位セルハ同側第二乳臼齒が早期ニソノ齒冠ヲ破損(第1圖40 a 参照)セラレシタメニ原因スルモノト考ヘラレル。尙ホ上顎左側第二小白齒、第一小白齒竝ニ側切齒モ共ニ近心ニ轉位セルヲ認メタ。而シテ上顎右側中切齒ト同左側側切齒トノ空隙ハ大約7耗、上顎左側中切齒ノ近遠心副徑ハ10耗アリ、從ツテ同齒牙ヲ正常ナル位置ニアラシメルタメニハ3耗空隙ノ不足セルヲ認メタノデアル。

尙ホ下顎齒穹ヲ單獨ニ測定スルニ下顎左右第一大臼齒ノ位置對稱的ニシテ異常ナク略々正常ナル狀態デアル。

第 2 圖 (施 術 前)

40b

昭和7年10月3日(再診)

從ツテ本例ノ如キハソノ上下齒穹ノ近遠心關係ハ正常ナルモノト考ヘルヲ至當トスル。

診 斷

上下齒穹ノ近遠心關係ハ正常ナレドモ上顎左側第一大臼齒ノ近心轉位ト之ニ隨伴シテ生ゼル同顎左側第二小白齒，第一小白齒，側切齒ノ近心轉位，竝ニ當該側切齒ノ近心轉位ニモトヅク左側中切齒ノ出齦部位ノ狹隘，而シテ同顎右側中切齒ノ舌側ニ轉位セルモノト診斷ス。

施術方針

本例ハ診斷ノ條下ニ述ベシ如ク上顎左側第一大臼齒ノ近心ニ轉位セルコトガ同顎左側中切齒ノ唇側轉位ヲ誘起シタ唯一ノ原因デアラカラ，從ツテ先ヅ上顎左側第一大臼齒ヲ遠心ニ移動スルコトガ施術ノ根本方針デアラコトハ明カデアル。次デ同第二小白齒，第一小白齒，側切齒ノ遠心移動ヲ行ヒ，最後ニ上顎右側中切齒ヲ唇側ニ移動スルコトデアル。

施術方法ト經過

昭和7年11月21日，上顎左側第一大臼齒ヲ遠心ニ移動スルタメ第3圖ノ如キ顎間

第 3 圖

左側第一大臼齒ノ遠心移動

固定法ヲ用ヒ，「ゴムリング」ヲ左側ニノミ使用シタノデアル。此ノ際唇側孤線ト前齒唇面トノ間ニ約1耗位ノ間隙ヲ保タシメ，下顎ニ舌側孤線ヲ使用スルコトハ勿論デアル。カクテ約6ヶ月後ニハ第4圖40cノ如ク充分ニ上顎左側第一大臼齒ヲ遠心ニ移動セシメルコトガ出來タ。此ノ間，左側第二小白齒，第一小白齒，同側切齒ハ何等矯正裝置ヲ用ヒザルニ

第 4 圖

40 c
昭和 8 年 5 月 12 日

第 5 圖

第 6 圖

昭和 9 年 1 月 16 日

昭和 9 年 2 月 26 日

第 7 圖

40-e

40 d
昭和 8 年 10 月 23 日

齒牙ノ輕度ノ捻轉ヲ矯正スルタメニ釘管裝置ノ應用

第 8 圖

自然ニ遠心移動シ上顎右側中切齒ト同左側側切齒トノ空隙ハ7耗ヨリ8耗ニ増加シ、上顎左側中切齒ノ唇側傾斜モ稍々改善セラル、ヲ認メタ。此處ニ於テ唇側弧線ヲ使用ヲ中止シ、代フルニ口蓋側ニ新ニ舌側弧線ヲ(第5圖参照)裝置シ、上顎右側中切齒ハ單純彈線ニヨツテ唇側ニ移動セシメ、又指樣彈線ニヨツテ同左側第二小白齒第一小白齒、側切齒ト漸次ニ遠心ニ移動セシメ第6圖40dノ如キ結果ヲ得タ。所要日數約五ヶ月デアツタ。尙

昭和9年5月8日

上顎右側中切齒ハ唇側移動未ダ不充分デ依然繼續

第 9 圖 (イ)

昭和7年10月3日(上顎施術前)

第 9 圖 (ロ)

昭和9年5月8日(上顎施術後)

シテキタガ昭和9年1月16日ニハ第6圖40eノ如ク殆ド唇側ニ移動シタガ尙輕度ノ捻轉ガ認メラレタノデ第7圖ノ如キ釘管裝置ニヨツテ之ヲ矯正シタ。所要日數ハ一ヶ月デ、釘管裝置ヲ其ノ儘保定裝置トシテ代用三ヶ月間、第8圖40gノ如キ結果ヲ得タ(第9圖イ、ロ參照)。

豫 後

大臼齒ノ遠心移動ハ早期ニ之ヲ行ヘバ比較的容易ニ且ツ豫後モ佳良ナルコトが多イノデアルガ本例ニ於テモ施術後ノ上下齒牙ノ咬合狀態ハ既ニ安定シテタルノデ豫後ハ佳良ナリト信ズル。左側中切齒ハ矯正裝置ヲ用フルコトナク正常ナル傾斜狀態トナツタノデ殆ド再發ノ憂ナキモノト考ヘル。從ツテ本例ノ豫後ハ概シテ良好デアルト思フ。

擱筆スルニアタリ、日頃御懇篤ナル御指導ヲ給ヘル高橋先生、竝ニ矯正科教室各員ニ厚ク感謝ノ意ヲ表ス次第デアル。(完)